

<p>第 206 回 都市懇サロン レポ ー ト</p>	<p style="text-align: center;"><b>密集市街地におけるまちづくりの可能性</b> ～東京 23 区の状況と今後の展望～</p>		
<p>講 師</p>	<p>株式会社双葉常務取締役 舟山 光雄</p>	<p>開 催 日</p>	<p>平成 28 年 11 月 8 日(火) 18 : 00～20 : 00</p>
<p>講 師 プロフィール</p>	<p>昭和 47 年江戸川区入区・平成元年から区画整理課、以後平成 16 年まで区画整理業務に従事。一之江駅西部地区・瑞江駅北部地区等の密集市街地の区画整理業務で小規模宅地の改善や住環境整備に向け区画整理を活用した付換地や住宅づくり WS を行う。篠崎駅西部地区では連鎖型区画整理・西篠崎地区の地積整備型区画整理の計画・実施。平成 16 年以降 JR 小岩駅周辺地区の密集市街地の区画整理・再開発一体施行の事業化を進める。平成 25 年株式会社双葉入社</p> <div style="text-align: center;">  <p>当日の写真(お話中の様子)</p> </div>		
<p>お話の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密集市街地におけるまちづくりの課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会＝密集市街地の高齢化</li> <li>・建築規制</li> <li>・まちづくりの主体形成</li> <li>・公共施設の脆弱性</li> </ul> </li> <li>2. 東京都の防災都市づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・木密地域不燃化 10 年プロジェクトの推進</li> <li>・防災都市づくり推進計画の目標</li> <li>・新規事業：防災生活道路整備事業、地区防災不燃化促進事業</li> </ul> </li> <li>3. 防災危険度 4, 5 地区の特性（高齢世帯割合、持ち家比率、不燃化率などから）</li> <li>4. 防災を目的化しない新たなまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災はまちの魅力を高めるため手段、防災だけではまちの活力や持続性は生まれない、少子高齢化社会のなかで新しい密集市街地の個性を創造する</li> <li>・まちのコンセプト・ブランディングが必要</li> <li>・密集市街地間の新たな都市間競争の始まり⇒新たな価値観と目標をもった密集事業のまちづくり</li> </ul> </li> <li>5. 密集市街地の再整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・密集市街地における土地区画整理事業、市街地の再開発事業、建物の共同化</li> <li>・一体施行への取り組み、効果（事例：JR 新小岩駅周辺地区）</li> </ul> </li> </ol>		
<p>意見交換の概要</p>	<p>Q: 防災生活道路を 4～6m までに拡げることの効果について A: 幅員が 12m あれば効果はある。建物の不燃化も行えば完璧となる。新規の地区防災不燃化促進事業は、不燃化建替え工事費の一部助成があり、期待される。</p> <p>Q: まちづくりの進め方について A: 防災生活道路の整備により、ここに逃げれば安心なエリアをつくりながら密集市街地の個性を創造していくことである。</p> <p>Q: これからの密集市街地のまちづくりについて A: 例えば、猫が安心して散歩できるまち、面白いことがあるまちなどまちを楽しみながら安全・安心なまちづくりを行っていくことと考えます。</p>		
<p>記録者のひとこと</p>	<p>密集市街地の改善は防災の視点が重要課題となっているが、今回のお話では防災は手段であり、まちの活力や持続性をうみだすための楽しいまちのイメージが紹介され、今後の明るい密集を感じた。《都市懇サロン運営部会 委員 菊地建生》</p>		